

新

統合浄水場が完成 すべての家庭に安心の水を

蛇口をひねると出てくる水道水。市民の皆さんが利用している水道水は、これまで市内3箇所の浄水場から届けられてきました。このたび、燕市と弥彦村の浄水場を統合した新たな施設、「燕市・弥彦村統合浄水場」が完成し、2月25日から順次、配水の切り替え作業が行われています。

統合浄水場の処理能力は、1日当たり最大4万2千500立方メートル（学校の一般的な25メートルプールで約100杯分）の給水が可能で、約8万2千人分の給水人口を想定しています。

今号では、完成するまでの道のりや施設の特徴を紹介します。

●問合せ 水道局 経営企画課 計画係 ☎ 77・9402

燕市と弥彦村の 共同整備による浄水場



水道事業を統合

燕市と弥彦村は、「燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン」に基づいて、市村の枠を超えた広域的な取り組みを行っています。それぞれの強みを活かし、弱みを補完し合いながら地域全体の活性化を図ってきました。

連携をしていく中で、浄水場の維持管理に共通の課題を抱えていました。吉田・分水の浄水場と弥彦村の浄水場が同じ西川から取水しているという共通点があり、水道事業を統合し、共同整備を進めることとなりました。



◀平成30年2月に水道事業の統合に関する協定を締結。平成31年4月から燕・弥彦総合事務組合で水道事業の経営がスタートしました。



水道局キャラクター

つばひこ君

ツバメをモチーフにし、頭や瞳が水滴の形をしているのがチャームポイントで、胸には弥彦村を象徴する鳥居のマークがあります。「燕市・弥彦村統合浄水場」を見守る『守り神』として、水道事業をPRします。

燕市と弥彦村の 共通の課題とは？



共通の課題として、
①施設の老朽化
②水需要の減少
がありました。災害に強く、安全で安心な水を安定的に供給するためにも新しい浄水場の建設が必要でした。

課題① 施設の老朽化

従来の浄水場は、燕市に3箇所、弥彦村に1箇所あり、建設年数がいずれも50年以上と老朽化が進んでいます（表）。浄水場の配水ポンプなどの機械設備もこれまで計画的に更新してきましたが、全体として老朽化を解消するにはいたらず、将来にわたって使用していくためには、大規模な改修・更新が必要でした。

また、建設年からすると、

現行の耐震基準における耐震性能を満たしていない可能性があり、大きな地震に対して安全とは言えませんでした。

課題② 水需要の減少

近年、給水人口の減少や節水機器の普及などの影響により、従来の施設における最大稼働率はいずれも50%から70%台と低い状況になり、水需要と施設能力の間に大きな差が生じていました（表）。これは、水需要に対して施設能力が過大であることを示しています。

今後は、人口減少により将来の給水量がさらに減少することが見込まれ、施設能力を維持した場合、燕市と弥彦村を合わせた水需要と施設能力の差は、さらに広がってしまう状況でした。

▼各浄水場の稼働状況（表）

	浄水場	建設年	能力（m ³ /1日）	最大稼働率
燕市	①道金浄水場	S39	45,000	50.5%
	②吉田浄水場	S46	19,500	63.8%
	③分水浄水場	S49	8,000	75.9%
弥彦村	④弥彦浄水場	S33	6,670	63.1%

■従来の浄水場

①道金浄水場



②吉田浄水場



③分水浄水場



④弥彦浄水場



■4つの浄水場機能を集約した統合浄水場

（共同整備により建設コストの削減にも対応した）

